

=====

CONTENTS

- 卷頭言
- 第64回全国学術大会お知らせ
- 第10回太田勝洪記念中国学術研究賞の発表・授与について
- 事務報告
 - 2012～14年第3回常任理事会議事録
 - 日本現代中国学会理事選挙実施規定（試行）案について
- 2014～16年学会理事投票について
- 地域部会活動報告
 - 東海部会第2回研究報告会
 - 関東部会春季修士論文報告会
- 日本現代中国学会事務局あて寄贈図書・雑誌

=====

■ 卷頭言

「曖昧な制度」と中国料理の「うまみ」

加藤弘之（神戸大学）

中国の経済システムの独自性に注目し、筆者はそれを「曖昧な制度」と名付けた（加藤弘之『「曖昧な制度」としての中国型資本主義』NTT出版、2013年）。「曖昧な制度」の「曖昧さ」から受ける印象は、中途半端、不徹底、不透明などと並んで、どちらかといえばネガティブなものである。しかし、「曖昧さ」は柔軟さやしたたかさの裏返しでもある。拙著では、「曖昧さ」にも取り柄があると発想を逆転させ、「曖昧な制度」が改革開放後の中国に高度成長をもたらした経済システムの重要な構成要素であると、かなり思い切った仮説を提示した。筆者の主張がどれだけ支持されたのかはひとまず置くとして、「あとがき」で「曖昧さ」の比喩として中華料理の「うまみ」を取り上げたところ、少なからぬ賛同者を得た。少し長くなるが該当箇所を引用しておく。

あるとき、中国の友人と日中料理自慢となった。日本料理の繊細さを自慢して筆者いわく、日本料理では一つ一つの料理が美しい器に別々に盛りつけられ、ある料理は甘味が、ある料理は酸味が、そして別の料理は塩味がというように、素材に合った調理法と味付けでさまざまな味が楽しめる。この繊細さは中華料理の及ぶところではない。これに対して中国の友人いわく、なるほどそうした日本料理の繊細さは、中華料理にないものかもしれない。しかし、中華料理には、一つの皿に甘味も酸味も塩味もすべてが渾然一体となった「うまみ」が凝縮

されている。たとえば、北京料理の定番スープといえば「酸酩湯」だが、このスープは甘いですか辛いですか、それとも酸っぱいですかと聞かれても、うまいとしかいいようがない。これこそが中華料理の神髄である。(中略) 中華料理の「うまみ」に相当するものが、本書で追求しようとした「曖昧さ」なのである。

ここで筆者は、「うまみ」は「甘辛酸苦」の4種類の味覚を混合したものと主張しているが、「うまみ」は5番目の味覚だという有力な説があるのを最近知った。ウィキペディアによると、「うまみ」とは、「主にアミノ酸であるグルタミン酸、アスパラギン酸や、核酸構成物質のヌクレオチドであるイノシン酸、グアニル酸、キサンチル酸など、その他の有機酸であるコハク酸やその塩類などによって生じる味の名前」と定義される。

「うまみ」が5番目の味覚だとすれば、「うまみ」と「曖昧さ」を同列に論じることはできなくなり、「曖昧な制度」を「うまみ」で表現するのは大いなる誤解ということになってしまう。これは困ったと思ったが、よく調べてみると、5番目の味覚である「うまみ」(昆布でとったダシ汁に含まれる)と「酸酩湯」の「うまみ」(4種類の味覚の混合)とは、同じ「うまみ」でも似て非なるものである。「曖昧さ」が埋め込まれた中国の経済システムの独自性を、中華料理の「うまみ」で表現するという比喻は、いまでも有効だと考えている。

■第64回全国学術大会お知らせ

日本現代中国学会第64回全国学術大会(2014年)自由論題等募集のお知らせ

2014年の日本現代中国学会全国学術大会を、10月25日(土)・26日(日)の日程で、神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1 東急東横線白楽駅下車徒歩15分)において開催することになりました。今年の全国大会の共通論題は「日中関係」をテーマとし、昨今の冷え込んでいる両国関係を、中米関係、中国史など多角的な視座からとらえ直す企画を進めております。そのほか、会員の皆さまからも以下の募集を行いますので、ふるってご応募ください。

(1) 自由論題の報告希望者

(2) テーマ分科会の開催希望者

応募要項は以下の通りです。

1. 自由論題での報告(一人の報告時間は25分程度)をご希望の会員は、氏名・所属・報告テーマおよび要旨(800字程度)を下記10の連絡先までお送りください。大学院生は指導教員、またはそれに相当する人の推薦状(推薦者の所属、氏名、連絡先、推薦理由を記載)が必要となります。

2. テーマ分科会の開催(報告者2~3名、約2時間)をご希望の会員は、企画者の氏名・所属およびテーマ分科会設定の趣意書(800字以内)、報告者・所属、報告テーマ、討論者・所属、司会・所属を確定のうえ、下記連絡先までお送りください。会員での構成を原則とし、変更はできません。

3. ご連絡は、お問い合わせをふくめ、すべて電子メールでお願いいたします。その場合、添付ファイルは使用せず、メール本文にテキストで記してください。

※推薦状も原則としてメールで作成し、応募者はそれを転送するかたち(メール本文にペー
スト)をとってください。ウイルス感染防止のため添付ファイルは受け付けませんので、
ご協力をお願いします。

4. 締め切りは、6月15日（日）といたします。
（ニューズレター発行時点ですでに締め切りとなっております／広報委員会）
 5. 学会非会員の方は、入会が報告申し込みの条件となります。入会申請（申請先は学会事務局）をしていただいたうえで、ご応募ください。入会手続きが発表までに完了しない場合でも、申請済であれば発表は可能です。
 6. 大会参加の旅費等は自己負担となります。
 7. 報告希望、テーマ分科会企画が多数にのぼる場合は内容や会員歴などにもとづき、調整させていただくことがありますので、あらかじめご承知おきください。
 8. 報告申し込みをされた方には、メールにて実行委員会より申し込み受理の連絡をいたします。メール送付後、1週間以内に連絡がないときは、再度メールにてお問い合わせください。
 9. 自由論題報告者は10月10日（金）までに報告原稿またはレジュメを実行委員会まで提出してください。
- ※パワーポイント等の機器使用を希望される場合は、申し込み時に必ず明記してください。
10. 申し込み先は、以下の実行委員会メールアドレスです。

genchu2014yoko@outlook.com

この機会に当学会未加入の優秀な院生等にも是非、入会・発表をお勧めいただきますようお願い申し上げます。

2014年4月吉日

日本現代中国学会 64回全国学術大会 神奈川県実行委員会事務局

■第10回太田勝洪記念中国学術研究賞の発表・授与について

第10回太田勝洪記念中国学術研究賞は、日本現代中国学会の『現代中国』編集委員会および『中国研究月報』編集委員より推薦のあった下記論文が選ばれました。2014年1月25日（土）に開催された中国研究所新年会において、川島真・日本現代中国学会事務局長（大西広・『現代中国』編集長の代理）、代田智明・『中国研究月報』編集委員から受賞の理由が述べられ、杉山文彦・中国研究所理事長より受賞論文の発表および賞状・賞金の授与が行われました。

受賞作品：濱田麻矢氏

「遙かなユートピア—王安憶『弟兄們』におけるレズビアン連続体—」（『現代中国』第87号）
【推薦理由】

濱田麻矢「遙かなユートピア—王安憶『弟兄們』におけるレズビアン連続体—」は、現代中国を代表する女性作家である王安憶の「弟兄們」を題材とし、そこに登場する三人の女性に焦点を当て、ジェンダー論の視点から作品分析を試みたものである。濱田氏はアドリエンヌ・リッチの提起した「レズビアン連続体」（強制的異性愛に対抗する手段としての女性同士の紐帯）という概念を援用して「弟兄們」の三人の女性の関係性を説明し、三人が学校を卒業したのち、一人が出産を経験することをきっかけに徐々にその関係に亀裂が生じていくありさまを、作品に即して具体的に論じている。最後に濱田氏は、この小説は「女性同士の絆（レズビアン連続体）が持っている力を言語化し、明視化させた作品として、当代女性文学史の中で大きな意味を持つもの」とであると結論付けている。

論旨は明解であり、作品に対する具体的で正確な分析は説得力を持つ。王安憶の作品は女

性が主人公である作品が大多数を占め、中国の研究者の中にもジェンダー論的な視点から王安憶を研究する者が少なくない。そういった意味では素材と分析方法に目新しさが感じられるわけではないが、濱田論文の特長は、「弟兄們」の「女性同士の絆」がなぜ必要とされたのか、またどのような危険性を孕んでいたのかを作品の細部に沿って丁寧に論じ、結果としてこの作品の深層にある論理を見事に引き出していることにある。

濱田氏は、これまで張愛玲、陳衡哲、凌叔華など民国期の女性作家とジェンダーを中心に研究を続けてこられた。本論文はその延長線上にあるが、時代的にはこれまでよりもずっと新しい時代に視野を広げており、研究の広がりを感じられるとともに、今後の展開にも興味をもたれる。

上記のような理由から、編集委員会は濱田氏の論文に太田記念賞候補としての資格が十分にあると判断し、ここに推薦する次第である。

『現代中国』第 87 号編集委員会

受賞作品：津守 陽氏

「[に]おい」の追跡者から「音楽」の信者へ—沈従文『七色魔』集の彷徨と葛藤

【推薦理由】 津守論文は、近代の作家沈従文の「文学」「表現」に対する激しい追求の過程を、丹念に分析検討したものである。近年、近代中国文学研究の分野では、世界的にも沈従文のテキストに対する論究が盛んになっており、日本でも魯迅研究に勝る活況を呈している。著者の論文は、そのなかでもとくに難解な 40 年代後半のテキストを対象とし、それを精緻で鋭敏な感覚で分析した意欲作であり、沈従文研究において、最先端をいくものと評価しうる。沈従文における「世界」や「生命」の美に対する描写の重点は、30 年代には郷土色が強く、泥臭い「[に]おい」にあり、そのことによって沈の小説は、近代的な都市リアリズムとは異質な特色を獲得していた。しかし 40 年代に入ると、「凝視」を中心とする視覚表現に重点が変わり、それまでの静かな描写から絢爛たる修飾に移行する。そこで、聴覚的描写と視覚的描写とに重点がおかれた対照的なテキストが、共存することとなった。論文は、その両者の葛藤から逃避するように、「音楽」に対する信仰のような表現が出現してくるとする。これらの指摘は、後期沈従文研究に対する、大きな貢献と言えよう。

さらに分析の射程は、結論部分で触れられるように、中国 1940 年代文学に秘められた新たな潮流を発掘する可能性ももっている。つまり文学における現実性、リアリティそのものが具体的なものから「抽象性」に変化し、表現自体が大きく転換する時代であったことを物語ることである。そのなかに、沈従文の深い文学的苦悩があったことを、本論文は証していよう。さらに言えば、そんな文学的苦悩による危機と自殺という行為そのものが、中国文学史における大きな事件であることも、論文から示唆されることであろう。これらは、中国における「書写=ディスコース」の重たさとモダニティに関わる重要な論点を提示してもいるのだ。著者が今後さらに視野を拡げて、中国と文学とモダニティに関しても研鑽を積まれることは、本論文から十分に窺えるものであり、その意味も含めて、本論文が太田記念賞にふさわしい奥深さを有していると確信し、ここに推薦するものである。

『中国研究月報』編集委員会

■事務報告

□2012～2014 年第3回常任理事会議事録

日時：2014 年2月2日(日) 13:00～16:30

場所：神奈川大学24号館三階310室

出席者：高見澤磨理事長、日野みどり副理事長、川島真事務局長、阿古智子会計担当、趙宏偉関東部会代表、大澤武司広報委員長／大会開催校代表：間ふさ子（福岡大学、2013年度）、孫安石・大里浩秋（神奈川大学、2014年度）

欠席者：大西広編集委員長、菊池一隆東海部会代表、辻美代関西西部会代表、新谷秀明西日本部会代表

【報告事項】

1. 会務報告

1) 会員数、会費納入率等報告（事務局）

川島真事務局長より、2014年1月31日現在、個人会員数731名、団体会員数5で、会員数は合計736であること、また会費納入率（未納なし）が51.6%であることが報告された。

2. 会計報告（会計担当理事）

阿古智子理事より、会費納入状況が確認されるとともに、福岡大会の会計状況について報告がなされた。

3. 2013年度全国大会報告（開催校）

間ふさ子・第63回全国学術大会開催校代表より、「日本現代中国学会第63回全国学術大会運営まとめ」に基づいて、成功裏に終了した福岡大会開催の準備、開催状況、会計、学会支援センターや開催校によるサポート、役割分担、会を終えての所感などについて詳細な報告がなされた。参加者数はスタッフを含めて135名であった。今回は、日程調整の面で、他学会との重複も見られた上、当日は台風27号が日本に接近したこともあり、当日参加を決めた福岡以外の在住者は少なかった。また、課題として、参加申込みの連絡のみあって懇親会費・弁当代などを振り込まないままその会員が当日欠席した場合の処理問題などが取り上げられた。これらの経験と課題は、一橋大会のそれとともに第64回開催校である神奈川大学に引き継がれた。

4. 編集委員会報告

1) 『現代中国』編集状況

大西広編集委員長にかわり、川島事務局長より、編集委員会・楊暁文委員から在外研修などを理由に、委員を辞したいとの申し出があったため、持ち回り常任理事会の実施を要請し、審議の上、これが承認されたこと、後任には、同じく編集委員会から推薦のあった好並晶会員（近畿大学）が候補者としてあがり、審議の上、これ承認されたことが報告された。なお、好並委員の任期は、楊委員の辞任後の残りの任期とする。

2) 太田賞について

大西広編集委員長にかわり、川島事務局長より、「第10回太田勝洪記念中国学術研究賞の発表・授与について」に基づいて、『現代中国』からは濱田麻矢会員の「遙かなユートピア-王安憶『弟兄們』におけるレズビアン連続体」（第87号）が受賞したこと、2014年1月25日(土)に開催された中国研究所新年会において、川島事務局長(大西広・『現代中国』編集委員長の代理)、代田智明『中国研究月報』編集委員から受賞の理由が述べられ、杉山文彦・中国研究所理事より受賞論文の発表および賞状・賞金の授与が行われたことが報告された。

5) 広報委員会報告

1) ニュースレター編集・発行状況

大澤武司広報委員長より、2014年1月にニュースレター41号が遅滞なく発行されたことが報告された。次号は2014年5月に刊行予定である。

2) ホームページ更新状況

大澤武司広報委員長より、従前よりも多くのコンテンツがホームページに掲載され、学会員相互間の交流に活用されていることが報告された。

6. 各地域部会報告（各部会）

1) 関東部会

趙宏偉関東部会代表より、2014年1月25日に東京大学駒場キャンパスにおいて、澤田ゆかり会員を中心として企画された、「中国の労働問題」に関する研究会が実施され、同日関東部会理事会も実施されたこと、また2014年5月には修士論文報告会の開催が予定されていることが報告された。なお、2016年の全国大会の開催校は、慶應大学（湘南藤沢キャンパス）、実行委員長は加茂具樹会員となったことが報告された。

2) 東海部会

菊池一隆東海部会代表にかわり、川島事務局長より、東海部会からの報告資料に基づいて、東海部会の活動（部会の体制、趣意書、部会の範囲、事務局体制、2013年度の活動）などについて報告がなされた。第二回研究会は、2014年3月1日に愛知大学車道校舎にて開催予定である。

3) 関西部会

辻美代関西部会代表にかわり、日野みどり副理事長より、「関西部会活動報告」に基づいて、2013年12月21日に第一回事務局会議が実施されたこと（第二回は2014年3月12日を予定）、2014年6月7日に関西部会大会が実施される予定であることが報告された。なお、2015年の全国大会の開催校は同志社大学、実行委員長は巖善平会員となったこともあわせて報告された。

4) 西日本部会

新谷秀明西日本部会代表にかわり、大澤武司理事より、2013年の福岡大会が成功裏に終了したこと、また2014年6月に部会研究会が予定されていることが報告された。

7. その他

1) 『現代中国』デジタル化（科学技術振興機構関連）

川島事務局長より、「中国研究論文電子化のための基礎データ収集の件」などに基づいて、科学技術振興財団の進めている、日本の中国研究の情報発信プロジェクトのパイロット版として、『現代中国』のコンテンツをデジタル化して、同データベースに掲載する試みが進められていることが報告された。本件については、倉田徹会員、家永真幸会員の協力を得ている。

2) 『現代中国』印刷経費問題

高見澤磨理事長より、本学会の財務の健全性に関わる『現代中国』印刷経費問題については、既に一部の印刷会社にコンタクトをとっていることも含め、引き続き検討していくことが報告された。

【審議事項】

1. 2014年度全国学術大会について（開催校）

孫安石・第64回全国学術大会開催校代表より、「2014年日本現代中国学会準備報告」に基づいて学術大会の準備状況について報告がなされ、承認された。神奈川大学大会は、2014年10月

25-26日に実施予定で、25日昼に全国理事会、午後に共通論題（日中関係史）、分科会をおこない、そののちに総会、懇親会がおこなわれる。26日には午前に分科会、午後に自由論題実施される予定である。また、同日には「戦時下の紙芝居資料展示」もあわせておこなわれる。なお、同日は参加理事を同道しての会場の下見もおこなわれた。

2. 選挙について（事務局）

高見澤理事長より、2014年度は理事選挙が予定されているところ、本学会ではこれまで選挙実施後の「理事選挙報告」など、選挙管理委員会からの選挙実施報告はあるものの、選挙規則が策定されていないことに鑑み、選挙規則を作成してもちまわり常任理事会に諮ることが提案され、承認された。また、選挙管理委員会メンバーの確認がなされるとともに、選挙実施の目途としては2014年5-6月に実施し、7月初旬には選挙結果が出ていることが確認された。開票場などについては事務局が準備する。

3. 新入会員承認（事務局）

川島事務局長より、入会希望者三名の入会が諮られ、承認された。

4. そのほか

特になし

□日本現代中国学会理事選挙実施規定（試行）案について

日本現代中国学会ではこれまで理事選挙についての規定がなかったことから、常任理事会での御承認をいただきまして、「日本現代中国学会理事選挙実施規定（試行）案」を策定致しました。あくまでも試行案で、今回はこの方式でおこない、適宜修正を施して行ければと存じます。

日本現代中国学会理事選挙実施規定（試行）案

日本現代中国学会は、規約第10条（役員）に基づき、西暦において偶数年に理事選挙を以下の要領で実施する。

1. 選挙実施母体（選挙管理委員会）

選挙実施年の前年の全国理事会において選挙管理委員会委員候補を選定し、総会での承認を経て、選挙管理委員会を組織する。選挙管理委員会は、関東、東海、関西、西日本の四部会（以下地域部会）のうち実施母体となる幹事部会を中心に組織され、常任理事会及び事務局と協力して、選挙事務をとりおこなう。

2. 被選出理事・被推薦理事

選挙を通じて理事25名を選出する（被選出理事）。選出された理事25名は、新たに25名を推薦し（被推薦理事）、50名で理事会を構成する。被推薦理事の選出にあたっては、地域や研究領域のバランスを考慮するため、地域部会が候補者の推薦を行う。

3. 選挙人資格

本学会の会員は選挙人としての資格を有する。

4. 被選挙人資格

本学会の会員は被選挙人としての資格を有する。但し、三年以上会費を納めていない会員はその限りではない。

5. 選挙人名簿及び被選挙人名簿の確定

選挙実施年の3月31日現在の会員を以て選挙人とし、そのうち4但し書きに定める会員を除いた会員を被選挙人とする。

事務局長（またはその代行者）は、4月1日に3月31日現在の会員名簿（選挙人名簿）、4但し書きに該当する会員の名簿（被選挙人名簿作成資料）及び会員のうち4但し書きに該当しない会員の名簿（被選挙人名簿）を作成し、これを確認のため、会計担当理事及び地域部会担当理事に送付し、事務局長、会計担当理事及び地域部会担当理事は、4月10日までに名簿の点検を行う。名簿につき疑義がある場合には、事務局長に伝える。4月10日までに疑義の申し出がない場合には、送付した名簿を以て確定する。疑義がある場合には、4月20日までに疑義につき照会し、選挙人名簿及び被選挙人名簿を確定する。

6. 選挙の実施

- 1) 選挙は郵送でおこなう。
- 2) 学会事務局は、選挙管理委員会の要請に基づき、選挙人宛に、被選挙人名簿と、選挙についての説明、投票用紙、投票用紙封入用封筒、返信用封筒などを送付する。時期は5月1日を目途とする。
- 3) 選挙人は、投票用紙に無記名で十名以内連記の上、投票用紙封入用封筒に厳封し、返信用封筒で返信する。5月25日消印有効で投票を締め切る。
- 4) 選挙管理委員会は、6月上旬を目途に幹事部会の所在地で開票作業をおこない、結果を速やかに理事長に報告する。なお、第25位の会員が複数ある場合（24位以内において25名を超える場合には、その最下位を含む）には、常任理事会が、学会歴、年齢、所属地域などを参照して順位を定め、当選者25名を決定する。
- 5) 理事長は事務局長を通じて、選挙結果を当選者に通知する。選挙結果をふまえ、各部会を中心に被推薦理事候補25名を選出し、理事長に報告する。理事長は事務局をつうじて選挙結果を会員に告知する。
- 6) 理事長は、前項の当選者に対する選挙結果を通知する際に、被推薦理事候補者の推薦を各部会に依頼すること及び被推薦理事の決定については理事長に委任されたい旨の説明を付す。
- 7) 被選出理事については常任理事会終了後直ちに、被推薦理事には、地域部会からの推薦者リストを理事長が確認した後直ちに、事務局を通じて第1回全国理事会の日時及び場所について通知する。

■2014～16年学会理事選挙投票について

学会規約に基づき、2014～16年の学会理事について選挙投票をお願いいたします。

当学会の理事は25位まで（同数票の場合は26名以上）を投票で選出し、その選出された理事の推薦によって、あわせて50名の理事が選出され、総会で承認決定されることになっています。

投票は会員 1 名につき 10 名までの連記で、11 名以上書いた場合は無効、9 名以下の場合はその記載分が認められます(同一人名を重複して書いた場合は 1 票として計算いたします)。被選挙者は、同封の理事候補者名簿をご覧ください。この名簿に記載されていない人名に投票しても、無効となりますので、ご注意ください。投票用紙は同封の投票用紙入れに入れ、厳封した上、同封の封筒を使って、必ず 82 円切手を貼り、学会事務局までご送付下さい。切手の貼り忘れについては、事務局としては、受取をしないことにいたします。期日は 6 月 23 日当日消印有効です。宜しくご投票、送付のことお願いいたします。

2014 年 5 月 31 日

日本現代中国学会選挙管理委員会 同 事務局

*本選挙は常任理事会で決定された「日本現代中国学会理事選挙実施規定(試行)」に基づいておこなわれていますが、基本的にこれまでの選挙の方式を踏襲しています。

*なお、投票用紙入れには何も記載しないでください。お名前などの記入は不要です。

(本ニューズレターがお手許に届いた際にはすでに締め切りとなっている場合がございます。心よりお詫び申し上げます/広報委員会)

■地域部会活動報告

□東海部会第 2 回研究報告会

東海部会第 2 回研究報告会は、2014 年 3 月 1 日(土)に、愛知大学車道校舎 K1001 教室にて開催された。報告者と報告テーマは次のとおりであった。

①羽根次郎氏(愛知大学)

「人民共和国建国以降の革命中国における沖縄/尖閣の位置について」

②工藤貴正氏(愛知県立大学)

「台湾映画『父の初七日』にみる葬制と文化アイデンティティ」

③武内剛氏(愛知学院大学非常勤講師)

「中国雲南省におけるイ族支系のエスニシティ」

④加治宏基氏(三重大学地域戦略センター研究員)

「現代中国における“development”理念の変容とその対外経済協力政策の展開」

□関東部会春季修士論文報告会

関東部会は、修士論文報告会を 2014 年 5 月 10 日(土)に東京大学駒場キャンパス 2 号館で開催した。参加者数は 27 名で、報告者と報告テーマは次のとおりであった。

高柳峻秀(東京大学大学院総合文化研究科 M1)「100 年目の日中教科書問題—戦前期における官民「排日教育・教科書」観からの検討—」(川島真理事推薦)

鄭黄燕(東京大学大学院法学政治学研究科 D1)「現代中国都市部土地所有制度の政策決定過程」(高原明生理事推薦)

米多(東京大学大学院総合文化研究科 D1)「1960 年代半ばにおける中華民国のアジア連合形成策—「アジア反共同盟」から ASPAC へ—」(川島真理事推薦)

横尾明彦（東京大学大学院総合文化研究科 D1）「中国の通商体制改革における中央政府の役割—GATT 復帰交渉をめぐる一考察」（川島真理事推薦）

高柳報告は、戦前期中国の排日教育と教科書について、外交問題として考察する先行研究の成果をふまえながら、当時の日本側の「民間」の文献に見える観点をきめ細かく分析し、日中関係を考察する多様な視角も示唆した。鄭報告は「いつ土地所有制度が確立されたのか」という問題意識の下、1950年代には明確な規定のなかった都市部の土地所有制が、1982年憲法改正時に国有化に向かう経緯を、主に指導部の土地をめぐる議論の分析を通して説得的に示した。米報告は、台湾の対アジア外交政策の変容について、1964年～66年の蒋介石や外交部の動静及び関係外交史料を通して詳細に跡付けようとしたもの。横尾報告は、1980年代以降の中国GATT「復帰」交渉の構造を分析し、国内の通商体制改革との連動のしかたや国際環境の変化に伴う対外経済貿易部の認識の変化とその影響力を考察している。いずれの報告でも活発な議論が交わされ、活気溢れる修論報告会となった。

■日本現代中国学会事務局あて寄贈図書・雑誌

坂井田夕起子『誰も知らない西遊記—玄奘三蔵の遺骨をめぐる東アジア戦後史』龍溪書舎(2013/12)

武小燕『改革開放後中国の愛国主義教育—社会の近代化と徳育の機能をめぐって』大阪教育出版(2013/12)

望月哲男『ユーラシア地域大国の文化表象』ミネルヴァ書房(2014/3)

韓燕麗『ナショナル・シネマの彼方にて—中国系移民の映画とナショナル・アイデンティティ』晃洋書房(2014/4)

堀潤之・菅原慶乃『越境の映画史』関西大学出版会(2014/4)

（なお、編集作業の関係上、日本現代中国学会ニューズレター第42号の刊行が遅れましたこと、心よりお詫び申し上げます／広報委員会）

=====

日本現代中国学会事務局

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22

大学生協学会支援センター内 日本現代中国学会事務局

TEL:03-5307-1175 FAX:03-5307-1196

genchu@univcoop.or.jp 郵便振替:東京 00190-6-155984

広報委員長: 大澤武司(熊本学園大学)

ニューズレター編集: 福田円(法政大学)

日本現代中国学会 HP: <http://www.genchugakkai.com>

=====